



野村万作狂言の会

A Mansaku Nomura Kyogen Performance

'96年5月5日(日) 開場13:30
開演14:00

黒部市国際文化センター

コラーレ (能舞台250席)

全席自由3,000円 (当日3,800円)

三番叟

SANBASO

二人袴

FUTARIBAKAMA

□プレイガイド□

コラーレ、メルシー、魚津サンプラザ
コスモ21、アスカ、
インフォマート(市民プラザ・CIC)

三番叟

SANBASO



三番叟 野村 万作
 千歳 野村 萬齋
 太鼓 国川 純
 太鼓 鵜沢 洋太郎
 小鼓 鵜沢 速雄
 小鼓 古賀 裕己
 笛 一噌 隆之
 後見 石田 幸雄
 後見 小川 七作

能にして能にあらずと言われる「翁」の中の「三番叟」を独立させて演じるものがあります。翁が天下泰平を祈願するのに対して、三番叟は五穀の豊穡を祈るめでたい舞で、正月や舞台披きに演じられることが多い作品です。軽快な「揉の段」と荘重な「鈴の段」にわかれており、その間に千歳から鈴をうけとる問答がはいらいます。小鼓が3人で演奏することも、他の曲ではない珍しい形式です。

“Sanbaso” is a Noh piece which was originally performed for a good harvest and is often danced during the new year or at the opening of a theater. The performance consists of two types of dance. “cheerful” and “magnificent.” Three players of small drums separate the performance from other types of theater.

中世の頃、結婚のあと、夫が妻の実家を訪ねる儀式を「舁入」といいました。

さて、ここに世間知らずの若い夫があり、その舁入りに父親が門口まで付き添ってやります。礼装の長袴を着せてやり、自分は外で待っていますと、それを舅の家の太郎冠者が見付け、座敷へと招きます。しかし長袴はひとつしかありません。親子交替ではき替え、舅の前に出て挨拶をするうち、兩人一緒にとさそわれ、やむを得ずひとつの袴をふたつに分けて出るのでありますが、そうとは知らぬ舅に祝いの舞を所望され、舁と父親は大弱り…。

During the Middle Ages, there was a rite bridegrooms performed when visiting their bride's house to greet their new father-in-law after the wedding ceremony. It was called “Marrying an Heiress.” The bridegroom was accompanied by his father to the entrance of his new wife's house. The father dressed his son and waited until the son was found by the people of the house and eventually invited inside. But, the father did not have his own formal clothes. The father and son dressed in turns sharing the same “hakama” or trousers, and payed their respects to the bride's father alternately. The bride's father then asked to see them at the same time. In desperation, they split the “hakama” into two and wore half each. The Bride's father, who did not know that they were only wearing “hakama” in front, asked them to perform a celebration dance. This caused the bridegroom and father to be very embarrassed.

二人袴

FUTARIBAKAMA



舁 野村 萬齋
 舅 石田 幸雄
 太郎冠者 小川 七作
 親 野村 万之介
 後見 深田 博治



Mansaku Nomura

野村 万作

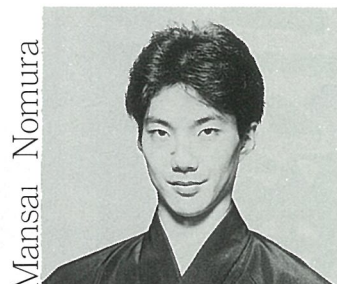
'31年生。故 六世 野村万蔵の次男。祖父及び父に師事。無形文化財総合指定者。海外で「野村狂言団」「万作の会」として公演し、その団長として交流に努めた。古典のほか、新しい試みにもしばしば取り組み、日本芸術院賞、芸術祭大賞、紀伊国屋演劇賞ほか多くの受賞歴がある狂言界の第一人者。日仏演劇協会副会長。平成7年 紫綬褒章受賞。



Mannosuke Nomura

野村 万之介

'39年生。六世 万蔵の五男。父に師事。重要無形文化財総合指定者。芸術選奨新人賞受賞。「野村狂言団」「万作の会」の重要メンバーとして、海外公演にたびたび参加。また、大学の狂言サークルを指導して久しい。狂言界の代表的演者のひとりである。「万之介狂言会」を主宰。



Mansai Nomura

野村 萬齋

'66年生。万作の長男。祖父及び父に師事。東京芸術大学音楽部邦楽科卒業。古典の大曲「釣狐」を演じ、狂言界の若手として活躍する一方で、「ハムレット」「テンペスト」に主演、出演し、黒沢明監督の映画「乱」やテレビドラマに出演するなど、汎演劇活動にも意欲的である。東京大学、お茶の水大学の非常勤講師を勤めた。

主催 財団法人黒部市国際文化センターTEL0765(57)1201

協賛 富山エフエム放送

(雨天の場合も決行しますが、会場内で傘の御使用はできませんので、雨合羽等を御用意ください。)

